

ジー・エス・エル・ジャパン

東京都港区港南4-1-6
 ビュロー品川211
 TEL.03-5462-7053
<http://www.gsl-th.com/>



和田洋人 社長

良質な原料でんぷんをより安く

ダイレクトに顧客へ供給

タピオカ芋由来のでんぷんが繋ぐ

日本とタイの明日への架け橋

昨今、世界的食糧需要の急増や気候変動による凶作の影響などにより、主要穀物の高騰が恒久化しつつある。我が国穀物輸入商社も、これまでの相場変動への対応とは次元の異なる対策を迫られている。こうした全世界的な潮流の中でタイのタピオカ芋からと

れるでんぷんの輸入販売・技術サービスを展開するジー・エス・エル・ジャパン株式会社（資本金1500万円）の和田洋人社長は、中間業者を省いたダイレクトな流通システムを確立。良質な原材料をより安価で迅速に顧客へ供給することに成功している。

タピオカというと食用の印象が強いが、実は同社は工業用、特に製紙業界向けにタピオカでんぷんを供給している。印刷の際の負荷に耐える紙の増強剤としてでんぷんが欠かせないからだ。

過去和田社長は、貿易商社の輸入担当として世界各国の顧客開発業務に携わり、現在の業務に繋がるノウハウを吸収。その実績を見込まれ、1998年に外資系メーカーに転職、新規事業としてタピオカでんぷん製品を取り扱い、短期間で年商5億円の事業として成長させた経歴を持つ。その後、タイのジェネラル・スターチ・リミテッド（GSL）社の日本法人として04年11月に同社の設立に至る。「外資系メーカーに勤務中に、M&A、リストラなど目まぐるしい出来事を数多く経験しました。そこで私自身が経営者になったときには、少数でも利益を出して会社を

経営していける持続可能なビジネスモデルの構築を構想しました」（和田社長）

タイの現地生産者とは10年前の勤務時代に和田社長自身が自らの足で開拓して以来の関係。こうした取引先との良好な関係は、同社長の人との繋がりを大切にする姿勢によるところが大きい。また輸入だけでなく、でんぷんの化学変性に必要な日本製化学品のタイへの輸出も昨年より開始し、業績も順調だ。

また和田社長は供給先のメーカーに対しても自ら試験場に出向き、水質・パルプ原料などその場の環境に合わせた紙の品質テストを行い、そのデータを提供することで自社製品の信頼性を高めている。

食品応用への展開コンセプト

トレーサビリティとサステイナビリティ

穀物を取り巻く環境は今後、不足気味の水資源や新興国の需要増加などにより逼迫が予想される。またでんぷんの食料への応用展開もますます重要となるが、その中でGSL社は確かな産地かつ品質の安定した新鮮な芋原料を確保し、継続的に一貫生産することを目指している。



タイ・コンブリーの広大なGSL工場（320ヘクタール）

「当社も08年より本格的に食品応用への展開を推し進めたい」と語る和田社長。

同社は設立時、和田社長が4割、GSL社が6割という出資比率でスタートしたが、昨年8月、自社株を買い戻し現在9割が和田社長の持ち株となっている。これにより、日本法人の立場から独立した企業として、よりフレキシブルに日本とタイとの通商にかかわれるようになった。

設立以来、仕入先・販売先を広げ順調に成長を続ける同社。07年は過去最高の売上高12億円に対して今年は何倍の24億円を見込んでいる。昨年11月には日本とタイ間においてEPA（経済連携協定）が発効した。両国間で今後ますます経済領域での連携強化・協力の促進が見込まれる中、いち早く現地の信頼を勝ち得てきた同社に寄せられる期待は大きい。（上）